

視察・政務調査報告

歩む会 参加議員 塩谷寿雄 阿部久夫 牧野 晶

鈴木 一 勝又貞夫

期 間 … 1月27日(月) ～ 1月29日(水)

◆1月27日 徳島県上勝町の政務調査については

阿部久夫議員により報告済み

◆1月28日 高知県高知市にて AM9:30-11:00

●調査内容

二段階移住推進事業について

高知市役所内にて資料にもとづき説明があった。

この二段階移住の推進事業は、人口減少対策として行われているもので、第一段階として高知市に《お試し移住》し、その後、県内の自治体を広く見聞し、第二段階の本移住へと誘導するもので、学ぶべき点多かった。

この事業での移住者の約7割が、20代～40代の比較的に若い世代で、高知市での一段階目の移住から、他の自治体に移ることなく、そのまま高知市で二段階目の本移住になるケースも少なくはないとのこと。一段階目のお試し移住は、1～6か月間で、市から上限20万円の補助

金が支給され、二段階目の移住相談のためのレンタカー費用も用意されている(上限2万円)。まずは高知市に住んでみて、その後時間をかけて移住先を決めてもらうという事業形態には、全くうなずける。

高知県の人口の47%が高知市に住み、なかなか他の自治体への分散が進まず、一極集中が加速する傾向となっている。よそからの移住者も、他の自治体に比べ高知市内に住むケースが多いようだ。今回の政務調査では、高知市の取り組みについての説明が中心で、県や県内の他の自治体との連携が、なぜか稀薄との印象も感じられた。

この事業の取り組みは、平成26年に移住・定住促進室を設置して準備が始まり、平成30年度に本格的に事業を開始した。この取り組みにより、新規相談件数は増えてはいるが、平成30年度の移住組数の実績は、なぜか前年対比で減っている。(資料10ページ右上グラフ参照)

この事業が始まって2年目ということで、移住組数が減った原因をまだ分析しきれていないのが現状とのこと。将来的には高知市の目標は年間200組とのことだが、移住者が真の定住者になるかどうかは、今後、長い目で見ると必要がある。

感想

人口減少はどここの自治体でも大きな問題となっていて、様々な対策が取られてはいるが、決定的な解決策はない。その地域に魅力があれば、来るなどと言っても人は集まってくる。逆にその地域の生活に魅力がなければ、移住して来て下さいと願っても、なかなか人は集まってこない。

わが南魚沼市は豊かな自然に恵まれ、水も空気もきれいで、有名な酒蔵もあり、なによりも《日本一＝世界一のコシヒカリ》の産地でもある。当市は県内の他の自治体と比べても、地元を宣伝するうえで、有利な点が多いのではないかと思う。行政の情報発信においては、様々な工夫が求められていることを再認識させられた。

◆1月29日 愛媛県 松山市 AM9:30-11:00

●調査内容

子育て応援券交付事業について

松山市役所内にて、資料にもとづき説明があった。

2人以上の出産を希望する人が、安心して生み育てることができる環境を整えることが重要であるとのことから、県・市町及び、県内紙お

むつメーカーとの官民協働により、平成 29 年度からこの事業は始まった。第2子以降の出生時に紙おむつ購入に係る経済的支援を行ない、子育てを応援するとともに、ひいては出生率の向上につなげたいとのこと。

紙おむつへの対策だけで出生率が上がるというわけではないが、様々な対策と組み合わせて効果を上げようというもので、これは愛媛県全体の補助事業で、第2子以降の出生時に、紙おむつを約1年分購入できる応援券5万円を、市町を通して交付している。愛媛県内では4つの自治体が第1子からの対応としているが、松山市では、財政状況が厳しいことから、第2子以降の乳児を対象としている。

県内の紙おむつメーカー(大王製紙・ユニ・チャーム・花王)との連携で、域内での経済循環ができる形となっている。県がメーカーから協賛金を受け入れ、応援券の利用経費に充当している。対象品目は紙おむつのみで、取扱店は 150 店とのこと。

歩む会管外視察

日 時 令和2年1月27日（月曜日）
場 所 徳島県、上勝町
時 間 午後2時～午後3時30分
目 的 ゼロ・ウェイスト運動（無駄、浪費、ごみをなくす）

● 上勝町の概要

面積 109 km²、総面積のうち 85.4%が山林で平地がなく、標高 100mから 700 mの間に大小 55 集落が点在している。

人口 1,577 人、高齢化率 50%以上と過疎と高齢化が進行している四国で一番小さな町である。

2003 年に「2020 年までに焼却や埋め立てせずにごみをゼロにする」目標を掲げ、日本で初めて「ゼロ・ウェイスト」宣言を行った町である。

● 説明内容

早く着き町を一巡した後ごみ集積所に着く。

着くなり花本靖町長が軽トラックで来て、歓迎の挨拶を頂く。

各家庭に生ごみ処理機（52,000 円の補助額 42,000 円）を 10,000 円で購入して頂き生ごみの集荷はしない。

生ごみ以外は、家庭で洗浄後町内 1 か所のごみ・資源集積所に各自が持ち込む、持ち込み出来ない人は 2 か月に一度 NPO が有償で個別集積に回っている。自己負担は 450 程度 10 円、粗大ごみ 270 円

衣類等や鯉のぼりの不良品など加工し「くるくる工房」、販売している。

視察料金は一人資料代として、2,000 円徴収、町の予算に入れる

● 所感

徳島県だけでなく、四国地方は山林面積が広く殆んど杉が植林されている。上勝町も殆んど山間地で植林されており、道路も狭く若い人が、この町に残って行くことは大変厳しい状況だと思った。

ごみゼロ運動も少ない人口だから出来る事であり、当市には出来ないと思う。当市も生ごみ処理機 10,000 円の負担であれば、各家庭も購入が多くなると思うし、生ごみの減量が図られると思う。

不燃ごみに対しては、当市とあまり違いがないと感じた。

鯉のぼりで作った羽織を購入、ある品物を加工し販売努力に感心しました。

最後に徳島県内で、一番小さな町が合併しないで頑張っていることに感心、今後とも日本一ごみゼロ運動を願って、所感とします。